

ズバリ聞きます！

9月議会・12人が一般質問



杉村 幸敏議員

小中学校統廃合の 今後の計画について

問 小中学校統廃合の今後の進め方及び基本方針についての考えは如何か。

答 小中学校の新設を基本方針としては方向性をより具体的にするため各方面との協議、県の財政課、施設課との協議又、文部省との協議を進めてまいる。今年度中に年次計画を作る。

問 建設計画についての考えは如何か。

答 現在の補助金制度を活用します。合併特例債、過疎債等をしつかり検討していく。校舎跡地の考えは如何か。

答 プロジェクトチームに於いてそれぞれの学校地域の特徴とそれなりの考え、案があるが、今後地域の皆さんの意見を踏まえながら取り組んでいく。

でいく。企業誘致、分譲住宅も考えられる。議員の皆様方のご意見、提言を頂ければと思う。

指定管理者になったロマン館、 肥後元気村の経営方針について

問 ロマン館、肥後元気村の平成19年度決算に対する町長としての思いは、どのようなか。

答 指定管理者制度を導入したことによって、それぞれの施設に於いて、従業員の方の仕事に取り組む意識は向上したと思う。

問 ロマン館4、000万円、元気村9、000万円の赤字の償還計画はどのようになっているか。

答 ロマン館に於いては、現在累積損失が4、075万円、19年度決算90万円の黒字となっている。18年度決算106万円の赤字となり、今後の状況は少しずつ良くなっている。ロマン館に於いては、出資金6、500万円を取り崩しながらの形で4、000

万円の赤字ですので外部からの借入はないわけで早く資本金を元に戻す努力をしているところだ。

元気村に於いては赤字9、349万円となっている。外部からの借入金2、000万円程度となっており早く返済するように努めたいと思う。元気村では、あばかん家の経営が厳しいので、投資をしないで、収益率の上がるようにしなければと思う。現在5時以降の採算が非常に悪いので、現在9時から午後10時までの営業時間を9時から午後5時までと4時間短縮することによって、年間500万円の収益が見込める計算となるので、役員会では決定している。又、燃料の高値が悪影響を及ぼしている。遠方からのお客様が少なく入湯客が少なく厳しい状況下である。20年度計画前年度比124%でしたが、修正計画となっている。



指定管理者制度のもとで経営が執行されている『肥後元気村』、『ロマン館』



杉本 和彰議員

今後の町債の見通しについて

問

大変有効な合併特例債だ。事業に充当予定の特例債は、残り7年間で事業を行い充当しなければならないのだが、新評価指標や実質公債費率等が本年度決算から適用になるけれども、この数値を超えずに特例債の活用は厳しいのではないかと想定するが、全額充当活用が可能か。基準財政需要額の算定時の調整率について考えを伺う。

答

早期健全化基準においては実質公債費率が25%であれば非常に厳しい。学校建設においては、小中学校が同じ校舎や体育館を利用する建物などで事業費の抑制を図る。有利な学校建設補助金や過疎債、合併特例債を有効活用する。公債比率にも大きく影響することから、人口の減少を

食い止めるために現在固定資産税の減税、定住奨励金、宅地造成事業を行い、人口減少を食い止める施策を行っていききたい。

問

宅地造成に起債はできないが。

答

そうです。しかし地域住宅交付制度というのがあり交付金申請を行う。

問

統合後の学級数が12学級から18学級になることが条件と法律にはあるが。

答

菊水地区において12学級というのは非常に厳しい状況だが努力する。三加和地区も非常に厳しい。

財政運営の健全性について

問

今後、バランスシートや行政コスト計算書、キヤッシュフロー計算書、純資産変動計算書の財務諸表が単体、連結ともに作成することが必要となる。発生主義の考え方を導入して総務省方式を発展させた手法のバランスシートを作成し

なければ、自治体経営をする場合、意味のないものとなると思う。総務省方式を発展させた和wat独自方式のバランスシートを作成する考えはないのか。独自方式でのバランスシートを作成するためには、プロジェクトチームを立ち上げるべきではないかと考えるが、町長の見解を求める。

答

改定モデルを使った方式をとる予定である。今後は作成された財務諸表に手を加えながら発展させた財務諸表を作る必要がある。もちろんプロジェクトチームの編成も必要である。

財政情報の重要性について

問

これまでの財政再建団体制度と自治体健全化法の大きな違いについて、町長はどのような認識をお持ちか。

答

4つの財政指標を公表し十分のチェックを受けることで財政破綻を未然に防ぎ、将来にわたって自立的安定的な行政運営を行い、財政構造

改革に取り組む。わが町は現在良好である。

21年度について

問

住民の要望は無限であるのに対し、財源には限度があることから、これまで予算編成に苦勞されているが次年度の予算編成についてどのような認識をお持ちか。

答

19年度決算で町税等自主財源が歳入全体の23%。事業の見直しによる経費節減、物品購入や委託事業契約の見直し、職員の定員管理の適正化等成果を求めていく。事務改善を越えた機構改革に関し外部の学識者を入れ検討する。

問

企業誘致促進、圃場整備、農業所得向上を目指すとは。

答

企業誘致に関し住民の生活の場、所得向上の場であり頑張っていかなばと認識する。圃場整備に関しては、生産基盤である。個人の管理ではあるが、和wat町の財産として、整備していく。

19年度の元気村とロマン館の修繕費の内容は。

答

元気村は設計委託が157万5,000円。給排水管、エアコン、自動ドア等あり合計2,126万1,063円。ロマン館水風呂、濾過ポンプ等で合計246万4,750円。経営の状況は、4月1日から7月31日までの純利益はロマン館が281万7,940円。元気村がマイナス4万6,983円です。



財政運営の健全化をめざして頑張る本庁総務課